

土岐川グリーンベルト通信 第74号

平成 28 年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

笠原中学校の 1 年生 90 名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、樹林の働きや樹林整備の意義を学ぶための学習、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。

この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市の支援のもと実施されました。

○学習会 6 月 3 日

室内講義「防災のはなし」「森林のはなし」

野外学習「土砂流出実験」「砂防ダム実験」「降雨体験」

○観察会 10 月 28 日

雨天のため中止

○樹林整備活動 12 月 21

野外学習「砂防堰堤の見学」

「常緑低木や成長の悪い木の伐採（間引き）」



6 / 3 学習会

室内講義



防災のはなし

防災のはなしでは、樹林地が荒廃していた笠原町の歴史や樹林整備の必要性を学びました。森林のはなしでは、我々の生活のあらゆる場面に木や森が関わっていることを学びました。



《樹林地の荒廃（多治見市笠原町森下地区）》

昔から窯業が盛んであったこの地域は、陶土の採掘や薪炭材の伐採のために、“はげ山”が広がっていました。笠原の森周辺も昭和 20 年代までは、はげ山が広がっていました。

野外実験

多治見砂防国道事務所による様々な実験を体験しました。

土砂流出実験



森がないと土砂が流れ出してしまう。森の存在は大切です。

砂防堰堤実験



砂防堰堤によって、土石流の被害を食い止めることができました。

降雨体験



雨の威力を知りました。時間降水量 100 mm を超えると息苦しさを感じた。

12/21 樹林整備活動

「土砂災害に強く、緑豊かな樹林づくり」を目的として、砂防堰堤を見学するとともに、健全な樹林を維持するために常緑低木の間引き作業を行いました。活動を通して、樹林整備の大切さを学ぶことができました。

開講式の様子



活動前の安全確認（装備品の確認）



活動前の安全確認（危険予知活動）



砂防堰堤の見学



伐採作業（支援者の指導のもと、仲間と協力して伐採を行いました）



後片付け（玉切り作業を体験し、切った木の片付け方を学びました）



閉講式の様子



【生徒の感想】

- ★伐採時には、受け口と追い口をつけるなど、正しい木の切り方を学んだ。
- ★実際に立っている木を切ることは、難しいと感じた。

「土岐川流域グリーンベルト整備事業」は、多治見市・土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>